



Megaptera

発行；小笠原ホエールウォッチング協会 東京都小笠原村父島字西町 04998-2-3215 (FAX兼用) メガプテラ=ギリシャ語で「大きなヒレ」

マッコウクジラ発見！
45にあがるブローを見た！



photo by 高橋 誠

一九九一年六月、我々は「小笠原マッコウクジラを見つける会」を発足し、イダテン2で一路母島の沖合へと出発した。この海域は「マッコウクジラのいる場所」と昔から言い伝えられた、それはそれは凄まじいところなのだ。その日海況はあまりよくなく、南からうねりが大きかった。南に向かう途中にはトビウオのように飛びイカは見えたものの、三月や四月に見るような水面から立ち上がるブローは見えなかった。

Uターンして母島西側の沖合を父島に向け走っていると突然「クジラだ！」との声、みんな「ワー！」となり船上はパニック。

五〇〇メートルほど先にブローが見えている。「ほんとだ！ほんとだ！」と各自カメラやビデオを取りに行くがうねりが大きくてなかなか思うようにはいかず、僕は何とかビデオを持ち船の一番前によじのぼった。しかし、これが失敗になるのを本人はまだ知らなかった。

発見してから一〜二分たっているがクジラはブローをしながら水面近くを南へ進んでいた。

ザトウクジラとは違うのが明らかに分かる。というのは、ザトウの場合は頭と背中が盛り上がった部分が出てきてブローするのだが、このクジラは頭が出るがすぐブローが上がるのだ。そのブローは左斜め上に霧状に上がる。頭の形も四角くて、マッコウクジラそのもののものだ。

会員の面々は口々に「マッコウだ！絶対マッコウだよな！」とまるで自分に言い聞かせているようであった。船はゆっくり近づいていた。しかしうねりのせいで僕のいる一番前は大

きく揺れ、ビデオのファインダーを通した白黒の世界は、母島の山々の頂上と真下の水面を行ったり来たりで、とてもじゃないがクジラが写っているかなど分からない状態で、船に弱い人ならこのビデオをみただけで横になりたくなる。

そんな戦いをしていううちにクジラは潜って行ってしまった。船は風で流れているし、マッコウクジラなんて次は何処にどれくらいで上がってくるのか全く分からない。

シーンとして待っていると後ろの方で何かがブリーチした！一キロくらい離れていただろうか、もう一度ブリーチ！しかしこれはマッコウじゃないぞ、ということになり、それ以降はマッコウの姿を見ることは出来なかった。帰りの船では「マッコウクジラを見た！」と、興奮さめやめまま帰港した。

ビデオを写すと、船酔いのシーンとさすがながらにマッコウの特徴が撮れた場面もあり、マッコウと見ればものすごくマッコウらしい姿があった。

ザトウクジラ、セミクジラ、コビレゴンドウ、バンドウイルカ、ハシナガイルカと小笠原で出会ったが、前からいると言われているが見たことがなかったマッコウクジラを見ることができ、本当にラッキーな一日でした。

今度はシロナガスカナ………と想ったりする今日この頃です。

小笠原ダイビングセンター

森田 康弘